

七五三膳  
五五三膳

〔屠龍工隨筆〕童の遊戯に、一の膳いやく、二の膳いやくといふより、段々がぞへて十の膳まで言立る事あり、膳府は本膳二の膳三の膳をなかに、四の膳五の膳など、童のことぐさのたはひなきよりいふなるとおもひしに、甲陽軍鑑の料理の事をかきたる圖に、誠に十の膳ありしなり、〔貞丈雜記飲食〕二七五三の膳と云事、七とはめしにてもあれ湯漬にてもあれ、七の膳まで出ずなり、五とは初獻、鯉のあつもの、二獻、うづらの羽もり、三獻、あつ物の四獻、むし、五獻、やうかん、せんかん、そへ肴、三とはきやらの膳也、三の膳まで出すなり、料理調様庖丁人の家に定法有、右は

